

新年明けましておめでとうございます

No436

ラベルニュース

東京都ラベル印刷協同組合

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

令和4年1月号

編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

アフターコロナへの対応をしっかりと

令和四年元旦

理事長 北島憲高



新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの猛威に振り回されること二年。昨年の今頃はまさかこの時期までウイルスの影響を受け続けているとは思わなかった方も少なくないと思います。

一年延期での開催となった東京オリンピックでもほとんどの競技で無観客の試合となり、その迫力を肌で感じる事が出来なかつたのは物足りなく感じました。しかしながらテレビやインターネット配信でそれ

らを楽しみ、SNSで感動を共有するなどオンラインならではの楽しみ方もありました。そんな日常の中でインターネットを駆使したオンラインでのやり取りにも幾分か慣れつつも、製造の現場をメインに抱える我々シール印刷業者にとっても様々な変革を迫られたことでしょう。この生活の変化の中で新たなもの作り

にチャレンジした方もいらっしゃると思います。さて昨今世界規模でSDGs(持続可能な開発目標)が人類・地球にとってより良い世界を目指す目標として掲げられています。主目的として挙げられている「項目は当たり前のことを言っているように感じますが、果たして私たちはどのくらい達成できているのでしょうか?シール印刷業界でも環境配慮をはじめ、雇用問題、コスト競争、事業継等、いくつもの壁が立ちはだかっています。このSDGsに掲げられた項目も参照しながら対策を考えていくのもヒントになるのかもしれませんが、話は戻りますが、コロナ禍で人同士の直接のやり取りがほとんどない生活を強いられる中、確かに電話でもメールでもオンライン会議でも使える道具はたくさんあるので問題なくやり取りすることは出来ました。しかし昨十一月頃より対面活動が再開し始めてから改めて思ったのは、直接対面での活動によって得られるものはそれらどんな道具にも代えられない大きな体験だと痛切に感じました。組合での活動も、オンライン会議での理事会や勉強会の



寅

専務理事 本間敏道



新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスによる影響がまさかここまで長引くとは思ってもよらず、収束しかけたかと思えば、今度はオミクロン株という変異ウイルスによって先の見えない状況が未だ続いています。

こうした中でも昨年は一年延期されたオリンピック・パラリンピックが開催され、無観客とはいえメダルラッシュに日本中が沸き、コロナ禍の中にあっても明るい話題を提供してくれました。

組合もコロナ禍の中田試行錯誤した年となり、五月には総会で北島理事長が再選され、新理事が四名誕生するなど役員の一新も図られました。平山前理事長の急逝という悲しい出来事もあり、前途は他人と言わざるを得ません。

しかし、泣き言ばかりも言っていられません。組合事業を一步でも前に進めなくてはならず、こうした時にこそ組合が何を為すべきかをいま一度問い直し、組合員・会友の声に耳を傾けることが急務だと言わざるを得ません。

組合の精神である「相互扶助」を再認識し、今後起り得るであろう様々な課題に対処していきたいと思えます。どうか皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



東京都中小企業団体
中央会会長 大村功作



明けましておめでとうございます。

令和4年の新春を迎えるにあたり、皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大による度重なる緊急事態宣言などの発出により、経済・社会活動が制限され、多くの業種で大きな影響を受けました。また、追い打ちをかけるように半導体や木材などの不足、原油高をはじめとする原材料価格の高騰など懸念材料が山積し、中小企業・小規模事業者は極めて厳しい状況のまま新年を迎えました。

このような状況の下で本会は、組合等が取り組む業界の活性化に向けた取り

組みに対する支援のほか、今年度は「新しい日常」に対応するためのデジタル技術等を活用した取り組みを支援する中小企業新戦略支援事業（団体向け）や技術・サービスの高度化・高付加価値化に取り組む中小企業・小規模事業者を支援する、明日にチャレンジ中小企業基盤強化事業などを実施しました。

また、コロナ禍やデジタル化を背景とした、昨年5月の中小企業等協同組合法等の省令改正による新たな総会制度（バーチャルオンライン型組合総会）や昨年10月に登録申請が開始された消費税インボイス制度の講習会を開催するなど組合や中小企業・小規模事業者等に有用な情報を積極的に周知いたしました。

さらに、昨年12月には、5回目となる「組合まつり in TOKYO」を開催しました。今回は2年ぶりにリアル展示会をメインに据え、およそ6,000人が来場し、対面でのコミュニケーションや「技」と「味」を五感で体験できるリアル

展示会の開催を組合関係者や一般消費者に求められていることが改めて実感できました。本年も引き続き、東京都に対して事業の継続を要望し、組合や中小企業・小規模事業者の支援策のさらなる充実を図ってまいります。

昨年は、わが国で東京

二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。コロナ禍による1年の延期や無観客という様々な困難がある状況の下で開催されましたが、

日本選手団は27個の金メダルを含む58個の史上最多となるメダル獲得数を記録し、コロナ禍にあっても我々に感動や勇気を与えてくれたことは記憶に新しいところです。

今年の干支は『壬寅（みずのえとら）』。「厳冬に耐えた種の芽吹きが始まる年」になると言われています。

会員の皆様、そして組合員の皆様が重ねてきた我慢と努力が新たな成長の一步として未来を切り拓く年となることを願ってやみません。本会は、本年も「相互扶

助の精神を誇りとし、協同の力で中小企業、地域社会の未来を切り拓くことを使命とする」という基本理念に基づき、組合巡回・相談業務さらに各種事業の効果的な実施に努め、コロナ禍においても皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

協賛会長 服部 真



果敢に動き

未来へつながるチャレンジの年に

賜り、厚く御礼申し上げます。本年も引き続きお引き立てのほど、よろしくお願ひいたします。

一昨年来、社会を混乱させてきた新型コロナウイルス感染症は、我慢を重ねた一人ひとりの防止対策やワークチン接種などが奏功し、

終息には至らないまでも国内では緩やかに落ち着きを見せ始めています。人流も少しずつ増加し、滞った経済活動は正常化へ向かう明るい兆しが現れてきました。

しかしながら、コロナ禍において取り組んだ働き方改革の一つである On-Line を活用したテレワークは、これからもアフターコロナ、ウィズコロナへの新様式として取り込んでいかななくてはならないと思います。変化した労働環境や生活様式が元に戻ることはなく、これを“進化”にとらえ、イノベーションを加速させることが、さまざまな教訓を得た我々の責務ではないでしょうか。

ポストコロナ時代を見据えた動きは活発化してまいります。事業を通じた持続的

社会の実現を目指す SDGs への取り組みは新たな製品やサービスとニーズを生み、DX(デジタルトランスフォーメーション)などのデジタル技術は新たな変革と市場をもたらします。

我々シール・ラベル関連業界も、この新様式の世界で力強く歩み続けていくことは、間違いなく今後、かけがえのない財産になると確信します。

二〇二二年は寅年です。強者のシンボルである寅(虎)には、古来「千里を行き、千里を無事帰る」という勇猛さを示す言い伝えがあり、この年の景況は千里を走るような勢いが出るとも言われます。その勢いに弾みをつけて、果敢に強い意志をもって突き進む、チャレンジの年にしようではありませんか。

最後に、各社様の今後のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしました。新年のご挨拶とさせていただきます。

十一月理事会議事録

■日時 令和三年十一月十七日(水) 午後六時三〇分

■場所 組合会議室

■出席者 北島憲高 本間敏道 大澤雅純 保坂知彦 藤井崇徳 藤井雅一 川野豊久

《議題》

1. 資材値上げ要請の件について

北島理事長よりタック紙の値上げについて連合会で協賛会への要望書と得意先への要望書のひな型文書を作成したので、これを使用してほしいと要請があった。また、組合の雄型用紙の値上げについては、本間専務理事より十一月二十一日出荷分より値上げになることをすでに組合員、協賛会に文書で通知してある旨説明があり、十二年ぶりの値上げであるため理解してほしいと説明があり了承された。

2. 勉強会の報告について

二年ぶりの研修会・セミナーは十月二十八日(火)に

正札シール会館で開催したが、現地参加者十二名、オンライン参加者十三名(うち報道三名)計二五名が参加し盛況理に終わったことが報告された。

3. 二〇二二年新春賀詞交歓会について

賀詞交歓会は二〇二二年一月十三日(木)午後五時より於上野精養軒で開催予定であるが、新型コロナウイルスのため、今回は立食はできず着席になること、この場合は人数によってはワク

としても青年部への支援を行う。同業組合にとどまらず、中央会や印青連など異業種似業種団体への参加のバックアップなどをしたいと北島理事長が説明、本間専務理事からはとにかくフオーローをすることが大事、せっかく出席をしてもその後のフオーローがなければ意味がないと発言があった。

5. 各委員会報告

・教育・経営委員…は勉強会セミナーを開催したと報告。
・技術・環境委員…ラベルコンテスト結果発表を報告。
・福利厚生委員…賀詞交歓会の準備状況を報告。
・事業委員…雄型用紙の価格改定について報告。

6. その他(今後の予定など)

①本間専務理事より事務局長が小林さんから神保さんへ後退したことが報告され、小林さんは引き継ぎのため年内いっぱい在籍することが報告された。

②平山さんの後任の副

理事長については、現状では理事は定款で七人八名となつているため、とりあえず空席のままにしておき、

平山愛二郎さんを理事候補とすることで了承され、今後北島理事長に話をしてもらうことになった。

③忘年会の開催については今期は実施しないことになった。

④ミニ機材展開催については二月十九日(台東)、二月十二日、三月五日(浜松町)が空いているが、今後さらに検討が加えられることで了承された。

日本ラベル

新社長に平山愛二郎氏

(株)日本ラベルは平山良一社長の死去に伴い、株主総会を開催し、新役員を決定した。

新役員は次の通り。

- 代表取締役・平山愛二郎
- 専務取締役・平山雄太
- 取締役・平山康寛



第一一七回ラベル会・平山良一追悼コンペ
実力者高橋範幸氏(サンワコーケン)が優勝

第一一七回ラベル会は、十二月十六日(木)に「佐倉カントリー倶楽部」に於いて、昨年九月に亡くなられた「平山良一氏追悼コンペ」として四組十五名で開催されました。

サンワコーケン社長の高橋範幸氏が実力通り、並みいる強豪を抑えて優勝しました。二位には昭和レーベルの大澤雅純氏、三位には塚谷刃物製作所の荒健也氏が入りました。

【高橋範幸氏談】

十二月十七日名門佐倉カントリー倶楽部にてラベル会に参加させて頂きました。同組の、爽やかな大滝社長、沈着冷静な清宮社長、

飛ばし屋北島専務とともに、飛ばし屋北島専務とともに、すばらしい快晴の中、風も吹かない一日でプレーを楽しみました。

数か月前アプローチが寄らない日々を過ごしており、不安が解消されないまま賑やかに三組目としてプレースタートとなりました。キ

ヤデイーのお母さんとも仲良くしながら、受けグリンが続き、手前から攻めることを念頭にパーオンを指す。しかし、上りのパターで三パット連続と出遅れ気味でした。少しパターの感覚も慣れてきて、思い切り飛ばしたロングホールで、二オンに成功。イーグルパットに入るが何やら匂う足元「なんだ？」と思いい靴底に泥かと思いきや動物のフンが!!慌てて、雑巾で拭いてもまだ匂う!!!なんとかここは、バーディーでまとめて、前半はダブルボギーなしの四一でラウンド。

日本ラベルの故平山前社長の追悼コンペも兼ねており、平山新社長より、おもしろいシヤンパンまで頂きました。本当にありがとうございました。



組合恒例の「ラベル関連ミニ機材展」は、新型コロナウイルスの影響でこれまで三回延期となっていました。今年三月十九日(土)に、台東区柳橋の「東商センター展示場」にて開催予定になりました。

すでに出席申し込みも始まっており、今回こそ開催できるかは、新型コロナウイルスの感染状況次第というのですが、主催者としては感染予防対策に全力をあげて、何とか開催したいと思っていますのでご協力をよろしく。詳細については組合事務局までお問い合わせください。

ラベル関連ミニ機材展

3月19日に開催予定

東商センター展示場

■**ガングリオンとは**
手のひらや手首の関節あたりに軟骨のようなものができて違和感があると感じた方はいませんか。これは「ガングリオン」という病気の一種です。

No183 健康がいちばん!
手のひらや手首の関節に軟骨
が出たら「ガングリオン」

手を使いすぎると腫瘍は大きくなる可能性があります。ガングリオンは関節包や腱鞘の部分から発生します。若い女性に多く見られますが、必ずしも手を良く使う人に見られるわけではありません。

■**原因は**

関節液や腱と腱鞘（腱の周りにある浮き上がり防止の鞘、ベルト通し様）の潤滑油である滑液がガングリオンの袋に送られ、濃縮してゼリー状になります。関節や腱鞘に生じるものは、関節や腱鞘に繋がっていません。特に関節からできるものは、関節包に繋がる長い茎で繋がっていることがほとんどです。

そのほかにも、ガングリオンは身体中の至る所に生じます。骨や筋肉、神経に出来るガングリオンもあります。これらは粘液変性したものが融合して生じると考えられています。

■**診断方法は**

腫瘍があり、注射針を刺してゼリー状の内容物が吸引できればガングリオンと診断できます。なかには外

側から触れない小さなガングリオンもあります。そのような場合は診断がつきにくいので、MRIや超音波検査をして診断します。手関節の痛みがいつまでも続くオカルトガングリオン（不顕性のガングリオン）もその一つです。

ガングリオンはしこりの特徴や発生部位などから診断の予測を立てることが可能です。しかし、ガングリオンと同じような症状を引き起こす軟部腫瘍などとの鑑別のため、しこりの状態や大きさ、周囲の骨や関節包、腱鞘などの位置関係を確認するため、MRI検査や超音波検査を行うことがあります。これらの検査で内容物が液状なものかどうか分かります。

また、ガングリオンの中には神経を刺激して痛みを引き起こすものの、体表面からは触れずに存在が分かりにくいタイプも少なくないため、MRI検査などの画像検査は、ほかの病気との鑑別を行うだけでなく、ガングリオンを発見するのにも優れています。

■**治療方法は**

ガングリオンは腫瘍のみで無症状なら、放置しても心配はありません。ただし、診断をもらうためにも整形外科を受診しましょう。大きくなるもの、痛みが強いもの、神経が圧迫されて神経症状があるもの（痛みや運動障害など）は治療が必要になります。

保存的療法としては、ガングリオンに注射針を刺して注射器で吸引し内容を排出します。何回か吸引排出する治療を行ううちに治ることもあります。ガングリオンに力を加えて押し潰す治療法もあります。

それでも繰り返し内容物が溜まるようなら、手術を行います。手術をしても再発する可能性もあります。再発を防止するためには、上記の茎を含めたガングリオンの摘出が必要であり、関節包の周囲に生じているガングリオン予備群の娘シスト（別の小さなシスト）の存在にも留意しなければなりません。

【引用資料】

<https://medicalnote.jp/>

症状としては、関節の周辺や腱鞘のある場所に米粒大からピンポン玉大の腫瘍ができます。軟らかいものから硬いものまであります。通常は無症状なことが多いのですが、時々、神経のそばにできると神経を圧迫して、しびれや痛み、運動麻痺などを起こします。